

**X'mas
2021**

「信仰の冒険者として」

マタイ福音書2章1～12節

東方の博士の訪問

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. プロローグ

メシアの約束と礼拝者たち

I. ヘロデとの謁見 1章1～8節

II. メシアの礼拝 1章8～12節

III. まとめと適用

信仰とは冒険だ!!

未知の領域に踏み出そう

天のエルサレムを目指して



～ことばなる神 主イエス・キリスト～

初めに**ことば**があった。


ことばは神とともにあった。

ことばは神であった。

ヨハネ福音書 1章1節



はじめに神が天と地を創造された。創世記1章1節

The image shows the silhouettes of a man and a woman standing in a grassy field, looking towards a vast, dramatic sky filled with large, colorful clouds. The scene is set during sunset or sunrise, with the sky transitioning from deep blue to warm orange and yellow. A single tree stands in the middle ground between the two figures. The overall mood is contemplative and serene.


神は、ご自分に似せて、男と女を造られた。
世界の管理を委ねられた人は、たった一つの禁止命令を破り、
善悪を知る木の実を食べてしまった。罪を犯したのだ。

The image shows a silhouette of a man and a woman standing in a garden. The man is on the left, and the woman is on the right, holding a small object (the forbidden fruit) up to her mouth. They are positioned in front of a large tree on the right side of the frame. The background is a warm, orange and yellow gradient, suggesting a sunset or sunrise. The overall scene is a classic representation of the biblical story of the Fall of Man.


罪を犯し、神から離れた人を滅びから救うため、
神は、救い主・メシアを送ると約束された。

人はなおも、罪を重ねていくばかりだった。
神は、アブラハムを選び、その子孫から、
メシアを誕生させると約束された。





アブラハムの子孫は、イスラエル民族となった。
神の栄光に導かれてエジプトを脱出し、
荒野を旅し、約束の地を目指した。




約束の地の目前の国、モアブの王は、おびただしい数のイスラエルを恐れ、北方から呪術師バラムを呼び寄せた。しかし、呪いを依頼されたバラムの口から出てきたのは、祝福の言葉だった。神は異邦人をも用いて、はるかな将来のメシアの誕生を告げられた。

イスラエルの宿営

【バラムによるメシア預言】

「私には彼が見える。しかし今のことではない。
私は彼を見つめる。しかし近くのことではない。
ヤコブから**一つの星**が進み出る。
イスラエルから**一本の杖**が起こり、モアブのこめかみを、
すべてのセツの子らの脳天を打ち砕く。民数記24:17」




ソロモン王が神殿を築き、王国は最盛期を迎えた。
神がソロモンに与えた**知恵**を求めて、多くの人々が
世界各国からエルサレムに上ってきた。



はるか南方からの訪問者・シェバの女王は、**神の知恵**を恐れ、**神の栄光**の宿る神殿に驚嘆し、イスラエルの神を讃えた。

【ソロモンの箴言・メシア預言】 箴言8:27～31

主が天を堅く立てられたとき、わたしはそこにいた。
主が深淵の面に円を描かれたとき、
上の方に大空を固め、深淵の源を堅く定められたとき、
海にその境界を置き、その水が主の仰せを越えないようにし、
地の基を定められたとき、
わたしは神の傍らで、これを組み立てる者であった。
わたしは毎日喜び、いつも御前で楽しんでいた。
主の地、この世界で楽しみ、人の子らを喜んだ。



イスラエルは、神に背き、偶像を拝み、罪を重ねた。
ついに、**神の栄光**は、神殿から離れてしまった。
神に裁かれ、エルサレムの都は、バビロニアに滅ぼされた。



エルサレムの人々は、バビロニアの都バビロンに連行され、70年間、捕囚として過ごした。

バビロンの空中庭園



イスラエルの預言者ダニエルは、バビロニア王の夢を
解き明かし、王に仕えるようになった。



イスラエルの唯一の神に忠実に従ったダニエルは、バビロニア王の像を拝まなかったために、捕らえられ、ライオンの穴に、放り込まれた。



神は、ライオンの口を閉ざし、ダニエルを救った。
バビロニアの人々は、真実の神を恐れ、ひれ伏した。



ダニエルは、バビロニアの滅亡と、その後に起こり、
世界を支配する国々について預言した。
そして、メシアが現れ、すべての民を解放する時を告げた。

やがて捕囚から解放され、帰還したイスラエルはエルサレムの都を復興した。

しかし、再建された神殿に、**神の栄光**は宿っていなかった。

数百年の間、イスラエルの民は、バビロニア、ペルシャ、ギリシャ、そしてローマと、大国の支配下で苦しみを味わい続けた。



ダニエルの預言から、500年が過ぎた。
イスラエルは、ローマ帝国の圧政の下、苦しんでいた。
多くの人々が、**メシア**を待ち望んでいた。



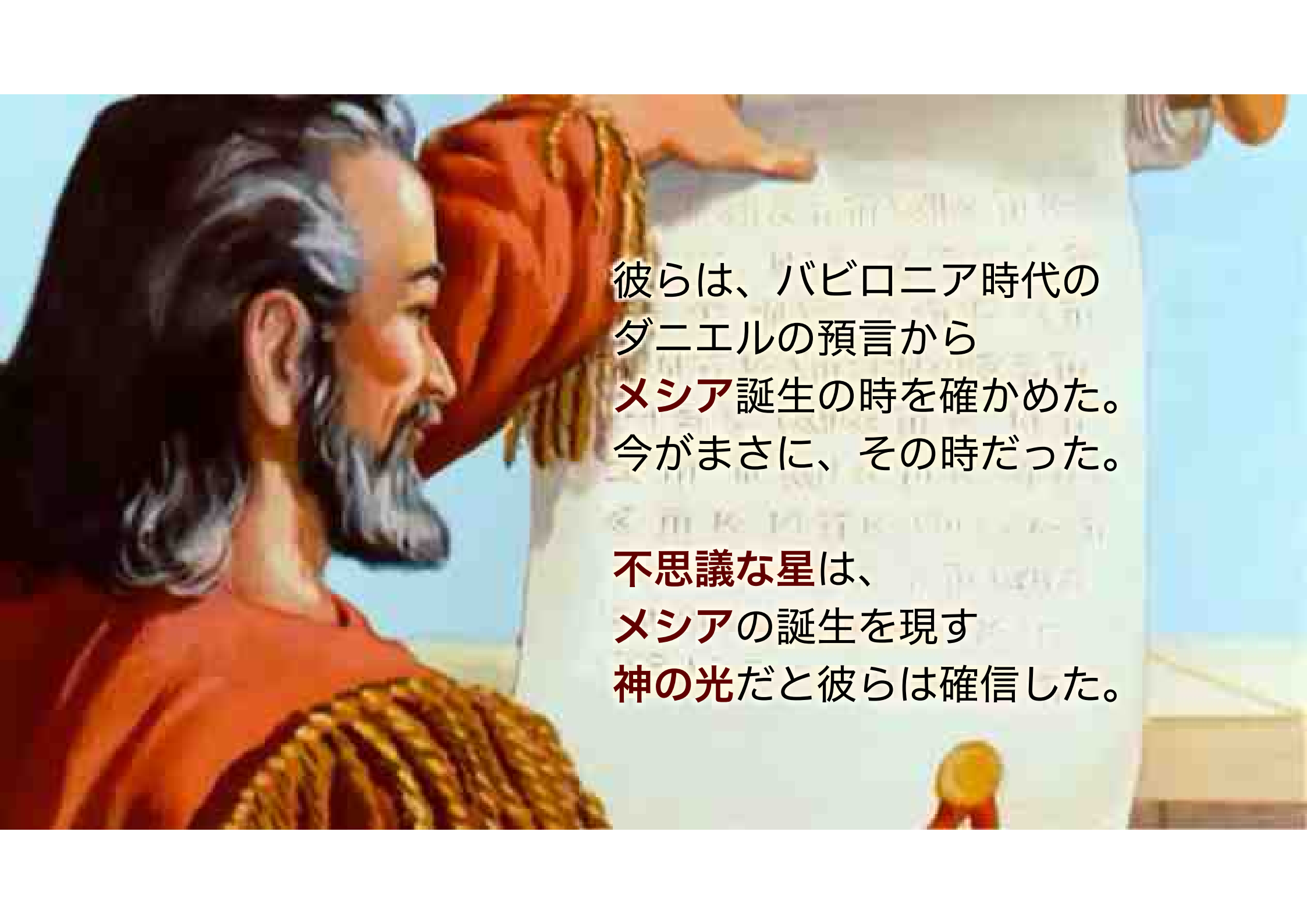
イスラエルのはるか東、バビロンで、あるとき、
占星術の学者たちが、**不思議な星**を見つけた。
彼らは、いにしえの預言を思い出した。



【バラムの預言】

ヤコブから**一つの星**が上り、
イスラエルから一本の杖が起こり、
モアブのこめかみと、
すべての騒ぎ立つ者の
脳天を打ち砕く。

民数記24:17



彼らは、バビロニア時代の
ダニエルの預言から
メシア誕生の時を確かめた。
今がまさに、その時だった。

不思議な星は、
メシアの誕生を現す
神の光だと彼らは確信した。


【70週のメシア預言】

～メシアの到来時期を告げる預言～

あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。

それは、そむきをやめさせ、罪を終わらせ、咎を贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。

ダニエル書9:24～26

A caravan of people on camels and horses traveling across a vast, golden desert landscape under a clear blue sky. The caravan is moving away from the viewer towards the horizon, leaving a trail of shadows on the sand. The people are wearing traditional desert attire, including head coverings and long robes. The camels and horses are carrying loads, and the overall scene conveys a sense of a long, arduous journey.

「メシアを拝みに行こう。」
博士たちは、キャラバン隊を組み、
はるか西のイスラエルに向けて旅立った。
私財を投げ打っての命がけの旅だった。

そして、2年の月日が流れた…。



Ⅰ. ヘロデに謁見する博士たち

マタイ2章1～8節



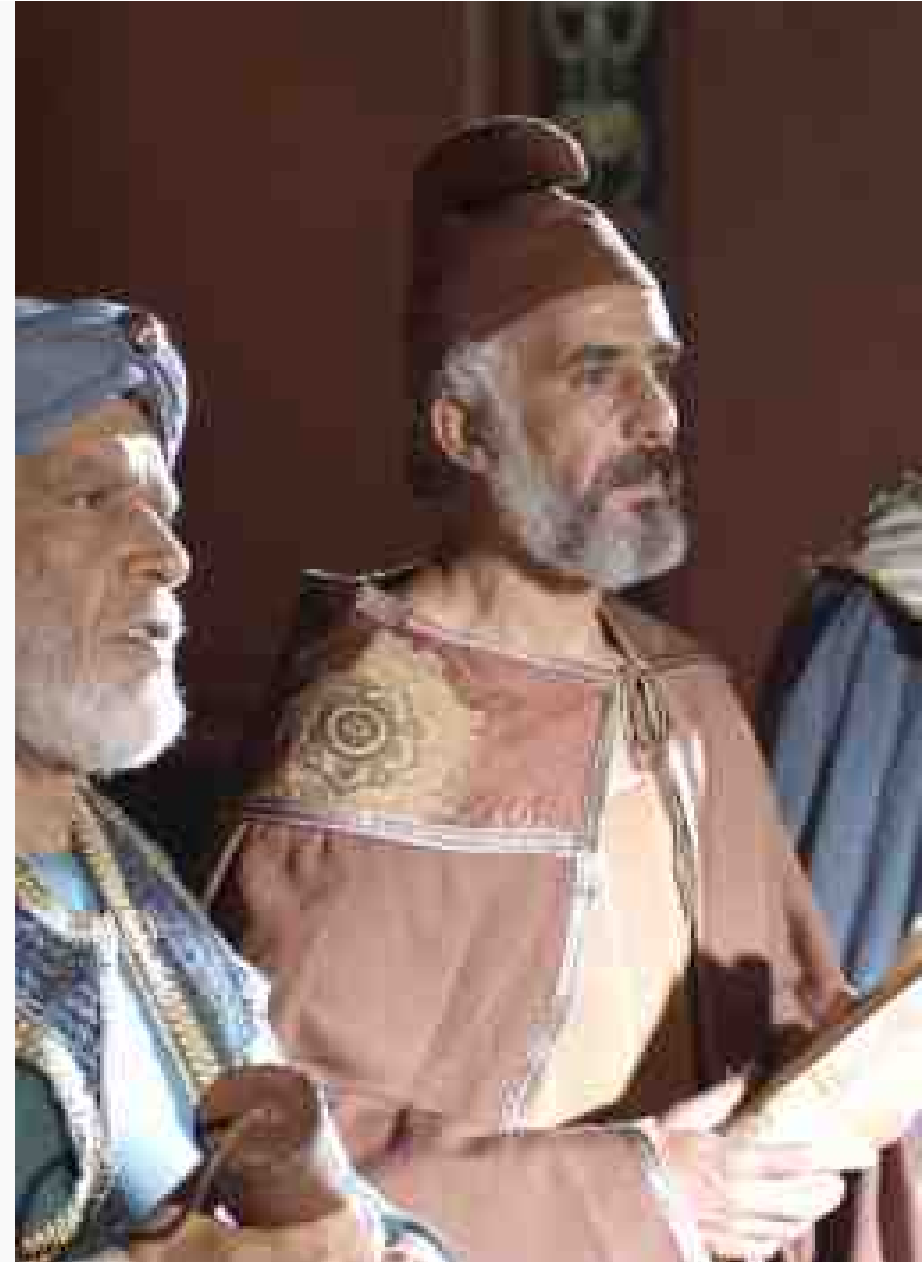
当時、イスラエルは、ローマの傀儡である、残虐な王ヘロデが支配していた。ヘロデが再建した神殿の荘厳さとは裏腹に、エルサレムの宗教指導者たちは腐敗し、信仰は形骸化していた。

【東方の博士の来訪】 マタイ2:1~2

イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。

「**ユダヤ人の王**としてお生まれになった方は どこにおいでになりますか。

私たちは、東のほうで**その方の星**を見たので、拝みにまいりました。」





およそ2,000kmの旅

2年をかけ、
命がけの旅をしてきた博士たち
ただメシアを礼拝するため!!

■エルサレム
■ベツレヘム

バビロン■

➔かつて、イスラエルの始祖
アブラハムが通ったのと同じ道のり

【恐れ惑うヘロデ】 マタイ2:3～4

それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、**キリスト***はどこで生まれるのかと問いたただいた。

***キリスト** (ギリシャ語) = **メシア** (ヘブル語)

■ 正統な王ではないヘロデ王と家臣は、イスラエルの真の王、メシア誕生の知らせに、恐れおののいた。

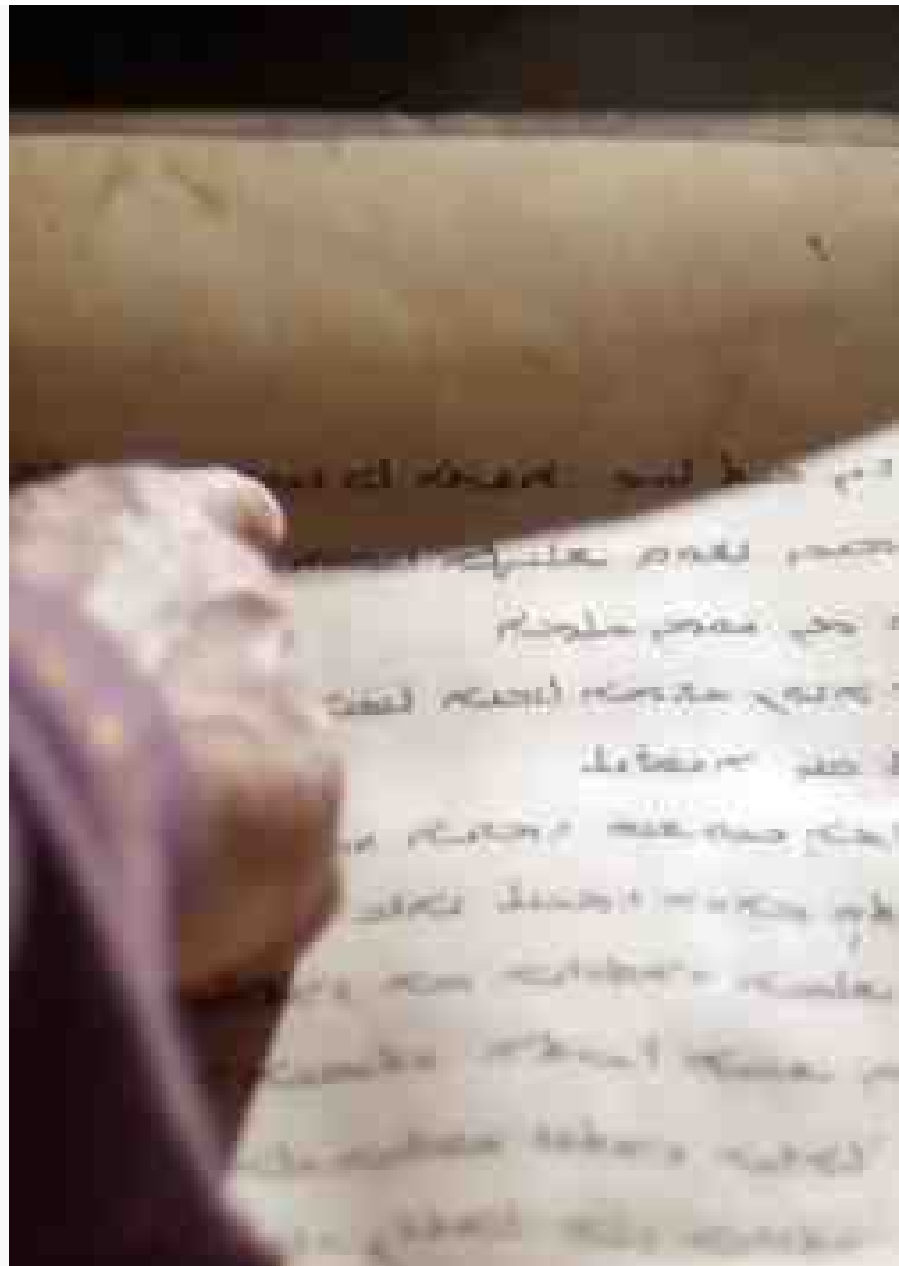


【救い主の預言】 マタイ2:5～6

彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。

『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』』

- ミカ書5：2の預言。東方の博士らは**メシア**の生まれる町は知らなかった。



【ヘロデの陰謀】 マタイ2:7~8

そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。

そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。

「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」

■ヘロデは、**メシア**を殺す機会をうかがっていた。





II. メシアの礼拝

マタイ福音書2:8~12

【星の出現】

マタイ2:9~10

彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。
すると、見よ、東方で見た星が彼らを
先導し、ついに幼子のおられる所まで
進んで行き、その上にとどまった。
その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。

…二年ぶりに、神の栄光が輝き、
博士たちの旅の最後を主ご自身が導いた。

【幼子への礼拝】 マタ2:11

そしてその家に入って、母マリアとともにおられる**幼子**を見、ひれ伏して拝んだ。

そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。

- メシアである**イエス**は、2歳になっていた。
- ヨセフ一家は、家畜小屋を出て家に移り住んでいた。



【三つの宝物の意味】 ルカ2:10～11

■ メシアの三つの性質を現す

① **黄金** … 王としての身分。

② **乳香** … 神性。神への神聖な供え物。

③ **没薬** … 死。死者に塗る腐臭防止剤。

…生と死を司る真の王にふさわしい宝物。

■ メシアであるイエスは、

① **王**であり、

② **神**であり、

③ 人類の罪の**贖い**として**死ぬ方**である。

博士たちに③の認識は
なかっただろう



【帰路につく博士たち】 マタ2:12

それから、夢でヘロデのところへ戻るなという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。

- 神が夢を通して働きかけた。
→ 打ち砕かれたヘロデの陰謀。
- 信仰者の礼拝は、
主ご自身が守り、導かれる。





V. まとめと適用

信仰とは冒険だ
未知の領域に踏み出そう
天のエルサレム目指して

【博士たちの示した信仰】

■博士たちの信じたこと

- ・ **メシア**がイスラエルに誕生するという、はるか昔から伝えられてきた神の預言を信じた。
- ・ 不思議な星を、**メシア**の誕生のしるしと信じた。

■博士たちが行ったこと

- ・ お金、時間、労力、危険…。大きな犠牲を払って、ただ、**メシア**を礼拝するためにやってきた。

■博士たちが与えられた恵み

- ・ **メシア**に礼拝した、**異邦人の最初の礼拝者**となった。
- ・ **メシア**を信じ、救われた彼らには、神の国での、**永遠の喜びの礼拝**の時が待っている。



【異邦人の礼拝者・シェバの女王と東方の博士たち】

- ソロモン王の時代、シェバの女王は**神の知恵**を求めてやってきた。
多くものをささげ、イスラエルの主を畏れ、礼拝した。
- 東方の博士たちは、ただ**メシア**を礼拝するためにやってきた。
メシアこそ、神の真実の知恵そのもの。
博士たちは、真実の王メシアにささげ、礼拝した。
- シェバの女王も、博士たちも、目指したのは、**メシア**。

私たちが目指すべきは、主イエス・キリスト、この方だけ!!

【私たちの目指すべきメシアは今どこに?】

- ご自身の民、イスラエルの残れる者・真の信仰者の中におられる。
「わたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。(マタイ25:40)」
- 天で、父なる神の右で、大祭司としておられる。
「このような方、敬虔で、悪も汚れもなく、罪人から離され、また天よりも高く上げられた大祭司こそ、私たちにとってまさに必要な方です。(ヘブル7:26)」

ユダヤ人の救いを天の大祭司イエスの御名によって祈ろう

【律法時代と教会時代、方向性の違いを認識しよう】

- シェバの女王も博士たちも、エルサレムを目指した。
律法時代の命令は、**神殿**に集い、礼拝すること。
メシアこそ真実の神殿。博士たちは幼子を訪れ、礼拝した。
- 今の教会時代に、私たちが目指すべきは、**主イエス・キリスト**。
主イエスは、天に昇り、神の右の座で大祭司としておられる。
神の霊が内に宿り、私たち自身が神の宮とされている。
- 主イエスの命令は「行って、すべての人をわたしの弟子としなさい」

教会時代の命令は、集うことではなく、派遣されること

【外へと向かい続ける教会時代のベクトル➡】

- エルサレムで生まれた教会・信者の群れは、迫害によって散らされ、サマリヤ、異邦人世界へと広がっていった。
- 異邦人の使徒とされ、ギリシャを巡ったパウロが、ローマを足がかりに目指したのは、さらに西方のイスパニア(スペイン)。 □

「このように、ほかの人が据えた土台の上に建てないように、キリストの名がまだ語られていない場所に福音を宣べ伝えることを、私は切に求めているのです。ロマ15:20」

福音宣教の使命をもって、未知の世界に派遣されよう

【私にとってのフロンティア・未知の領域に遣わされよう】

- シェバの女王も博士たちも、まだ見ぬエルサレムを目指した。
見ないで信じるのが信仰。踏み出して始めて成長の機会を得る。
- 私が遣わされるべき、未知の領域はどこだろう？
家族？ 友人？ 地域？ 職場？ 新たなコミュニティ？ SNS？
- すべての信者の究極の目的地、主イエスご自身が神殿である
天のエルサレムは、私たちが地上生涯を駆け抜けた先に待っている。

信仰の冒険者であろう!! 遣わされるただ中で主は共におられる

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。
博士(はかせ)たちのような、信仰(しんこう)の冒険者(ぼうけんしゃ)で
ありたいと願(ねが)います。
未知(みち)の領域(りょういき)へと、踏(ふ)み出す者としてください。
主が、かならず共にいてくださいます。
平安で満(み)たし、ここから遣(つか)わしてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」